

登山月報



2016年 みんなで山を考えよう!
 8月11日 祝「山の日」
 全国「山の日」協議会 山に親しむ機会を得て 山の恩恵に感謝する

第18回JOCジュニアオリンピックカップ2015	2
みんな集まれ!ジュニア登山教室 in 立山	3
第82回 Mountain World	5
新連載 「山の日」制定記念一ふるさとの山に登ろう	6
「山の日」祝日化プレ・イベント	6
国民の祝日「山の日」をピーアール	7
ネパール大地震救援募金を贈呈	8
全国規模での高校山岳部の実態調査(2)	9
2015 アンチ・ドーピング活動	11
トピックス	11
JMA、寄贈図書、編集後記	13

第18回 JOCジュニアオリンピックカップ2015

8月14日(金)「第18回JOCジュニアオリンピックカップ2015」の初日、早朝まで宿舎の屋根をたたくほどの強い雨が降っていた。しかし、大会開始時間が近づくにつれ雨は上がり、その雨が一転、例年にない涼しさを招いてくれた。

本大会は、第4回大会(2001年8月)から富山県南砺市(開催当時は、城端町)桜ヶ池クライミングセンターで開催されるようになった。世界を目指すジュニア競技者の登竜門として多くの選手を輩出し、世界ユース選手権、ワールドカップ等の世界大会において表彰台に立っている。今年は、全米ジュニア選手権で優勝経験を持ち注目されている、白石阿島選手も参加し、大会は大いに盛り上がった。

これらは、地元南砺市をはじめ富山県山岳連盟、地元城端町の皆様のご尽力によって運営され、競技運営のなめである競技アナウンスでは、臨機応変な対応で、競技を盛り上げていただいた。感謝申し上げます。

さて競技は、北は北海道から南は鹿児島県まで、222名(男子:121名、女子:101名)の選手によって、男女4カテゴリーで行われた。(昨年までのアンダーユースBは、ユースCに名称変更)

予選の競技形式は、14、15日の2日間、全員が2ルートをアイソレーションなしのフラッシングで行われた。ジュニア女子を除き2ルート完登者がでるなどレベルの高い内容となった。3日目には、各カテゴリーの決勝がオンサイトで行われた。使用するルートは共通で、カテゴリーごとに男女交互に競技が行われた。

女子は、中央壁から左壁にわたる非常に厳しいルートで、その中でも、ユースCの森秋彩選手(茨城)が6月に開催された第29回リードジャパンカップ2位の実力で、2位以降を大きく引き離し優勝。ユースAの田嶋あいか選手(三重)は、昨年に続き2連覇を果た



桜ヶ池CC競技会場

した。

女子総合(JOCカップ)はこの2名の争いとなり、決勝の到達高度が同じで予選結果へのカウントバックでも同位で、決勝での競技時間での順位確定という大接戦で、田嶋選手が優勝した。

男子は、予選で、ユースAで予選2ルート完登が5名、ジュニアで3名、ユースB、Cともに2名の完登者出る実力伯仲となった。

決勝は、中央右壁から左壁へ渡る下部のデリケートな動きから、厳しい傾斜に対応する能力が求められるルートとなった。

結果は、ジュニアでは是永敬一郎選手が、昨年ユースA優勝の波田悠貴選手との埼玉県同士の争いとなったが、ノーマル、プラスの差で逃切り、総合優勝までもぎ取った。

なおオープン参加で出場した、オンサイト5.14a、レッドポイント5.15aの白石選手は、参加選手中唯一全完登を果たし、その実力を見せつけた。

表彰式終了後、本協会選手強化常任委員で、東京五



是永敬一郎選手



森秋彩選手

輪組織委員会ヒヤリングに出席した平山ユージと日本からの出場が期待される白石選手の二人の合図で、2020年東京五輪で活躍が期待される選手、関係者一

同で「2020年東京オリンピックにクライミング競技を！」と雄叫びをあげ、来季での再会を誓った。

(記 競技運営委員長 西原斗司男)

ユースC女子	
1位	森 秋彩 (茨城県 市立松代小学校)
2位	菊地 咲希 (東京都 区立砧南中学校)
3位	小林 有希 (神奈川県 県立平塚中等教育学校)
ユースC男子	
1位	西田 秀聖 (奈良県 天理中学校)
2位	伊勢 一真 (滋賀県 市立松原中学校)
3位	高島 悠吾 (千葉県 市立小金北中学校)
ユースB女子	
1位	樋口 結花 (佐賀県 市立東部中学校)
2位	西田 朱李 (千葉県 市立花園中学校)
3位	黒岡 陽菜 (大阪府 市立高鷲南中学校)
ユースB男子	
1位	田中 修太 (新潟県 県立直江津中等教育学校)
2位	井上 遼 (愛媛県 市立高浜中学校)
3位	田嶋 瑞貴 (三重県 市立橋南中学校)

ユースA女子	
1位	田嶋あいか (三重県 県立津高等学校)
2位	高田こころ (鳥取県 県立鳥取中央育英高等学校)
3位	木下 茜 (長崎県 県立佐世保東翔高等学校)
ユースA男子	
1位	原田 海 (大阪府 羽衣学園高等学校)
2位	豊田 将史 (山口県 野田学園高等学校)
3位	大高 伽弥 (東京都 盈進学園東野高等学校)
ジュニア女子	
1位	原田 朝美 (長崎県 長崎国際大学)
2位	小武 芽生 (北海道 北星学園女子高等学校)
3位	坂井 絢音 (埼玉県 東京国際大学)
ジュニア男子	
1位	是永敬一郎 (埼玉県 日本体育大学)
2位	波田 悠貴 (埼玉県 県立久喜工業高等学校)
3位	飯田 讓 (千葉県 神奈川大学)



JOCカップ獲得(是永、田嶋)



You can climbing (平山、白石)

みんな集まれ!ジュニア登山教室 in 立山

今年で6回目を迎えた「みんな集まれ!ジュニア登山教室 in 立山 2015」が、国立立山青少年自然の家を宿泊地として8月16日(日)～19日(水)の日程で開催された。

16日朝7時30分、新宿駅西口をバスが出発。途中のサービスエリアで埼玉県からの参加者が合流して富山を目指した。道中の高速道路は順調に進むことができ、国立立山青少年自然の家で富山県・兵庫県・三重県からの参加者が合流し小学4年生から中学2年生までの男子7名、女子7名、合計14名の子ども達が集まった。開校式では、本木顧問から安全登山の心得、国立登山研修所の宮崎所長からは富山の自然を満喫してほしいとの話があった。

その後、部屋に荷物を入れる間もなく、隣接する来

拝山へ登った。この山は標高899mで、ここで立山を拝む「立山信仰ゆかり」の山でもある。かつて、立山が女人禁制だった時代には、女性たちはここから立山を拝んだと云われており、ここから眺める立山の姿はそれほど美しいようだが、今回は曇っており残念ながら眺望することができなかった。それでも子供たちは、疲れを見せることなく元気に登山をすることができた。

夜のフリーセッションでは3つの生活班を決めた。生活班は学年の枠を超えた4～5名の子ども達で構成され、食事、つどい、見学体験などで行動を共にする。

17日は午前中に立山カルデラ砂防博物館を見学した。博物館の飯田先生による日本初の氷河が立山で確認された話や、立山に見られる動植物の説明も大変勉

強くなった。その後、徒歩で国立登山研修所に移動し、おいしいカレーライスの昼食を食べた。

午後からはクライミング体験です。富山岳連の方々や長野山協の皆さんにビレー役をお願いし、みんな汗びっしょりになるまでがんばった。中には一番難しいルートをトップまで登れた人もいて、会場は大きな拍手に包まれた。夕方は自然の家に帰り、「おうちへの手紙」を書いた。自然の家の絵葉書に立山での楽しさをしたため、家族や友達に想いを伝えた。

18日は待望の立山登山の日。天気は高曇りで何とかもちそうだ。今年は、参加人数が少なかったこともあり、全部で3コースに絞った。Aコース1班(5名)雄山(3003m)とBコース2班(5名)は浄土山(2831m)に登り、Aコース3班(4名)大汝山(3013m)とそれぞれ目標の山に臨んだ。室堂の立山と浄土山の分岐地点で親子連れのライチョウ5羽を見つけ子ども達はもちろん引率の私たちも大喜び。標高2705mの一ノ越より上はガスに包まれていたが、時より雲間から室堂平や山崎カールが見えた。少数で登った大汝山コースの4名は、往復6時間ものタフなルートを見事に登り切った。14名の子どもたち、そして11名のスタッフの皆さん、本当にお疲れさまでした。

宿泊最終日のこの日の夜はキャンプファイヤーが中止となったが、本木顧問の始めの言葉の後、仙石常務理事による各班が中心となったゲームはどれも楽しく盛り上がり、全員が一丸となって参加できたことは初めて参加した私にとっても大変参考になったレクリエーションだった。泥棒・警察ゲーム(泥警)、じゃんけん列車、発信者は探せなどで楽しむ子ども達の笑顔が生き生きと感じられた。レクリエーションの途中では、子供たちをはじめスタッフも罰ゲームをするなど忘れられない思い出になったことでしょう。

最終日の20日は、記念撮影の後に閉校式。4日間のふりかえりでは、イラストを交えながら頑張ったこと



ヘルメットをかぶっていざ立山登山

や楽しかったことを書いた。その後、本木顧問から一人ずつ修了証と記念バッジが手渡された。閉校式の後は、「称名の滝」を見学した。この滝は弥陀ヶ原台地の縁から称名川へ、4段350mの日本一の落差を誇る。この日は悪天候が続いていたため増水期のみ出現する「ハンノキ滝(落差約500m)」も右手に見られ、下界の暑さを忘れる瀑風と水しぶきに歓声が涌いた。見学後、立山駅前で現地合流したお友達と手を振って別れ、バスは帰路に就いた。

ジュニア登山教室 in 立山は、3泊4日の日程中に盛りだくさんのプログラムが組まれている。参加した14名の子どもたちから、「立山の大自然の素晴らしさに感動しました」「友だち同士で支えたり支え合ったりの4日間でした」「改めて友だちの大切さを強く感じました」などの感想が寄せられた。この教室のねらいである「自然のすばらしさ、登山・スポーツクライミングの楽しさを学ぶ」「共同生活により団体生活のルールを理解する」「自立心を養い自分で考え行動できる」という目標が達成されたようだ。

最後になりましたが、この活動のために準備段階からご尽力いただきました関係者の皆様方に厚く御礼申し上げます。(記 中瀬和徳)



国立登山研修所でのクライミング体験



立山カルデラ砂防博物館見学

第82回 Mountain World

K 6 西峰とリンク・サール

池田常道

表題に掲げたピークは、じつはもともと同じものだった。後者のLinkはドイツ語で「左」を意味し、1970年に南面のナンマー谷からK 6 主峰(7282 m)に初登頂したオーストリア隊のエドゥアルト・コプルミュラーが名付けたものである。南からK 6 を仰いで、右の主峰に対して西峰(7040 m)を左の峰、すなわちリンク・サールと呼んだ。この両者には含まれた7100 mピークには中央峰の名を与えている。(『岩と雪』21号)

一方、現在リンク・サールと呼ばれている山は、1955年にスケッチマップを発表したN・F・ノクソンが無名峰7040 mとしたもの。1971年に刊行された『世界山岳百科事典』の「海外主要山岳高度表」ではK 7 E (リンク・サール)となっている。つい最近、ネットで見えたらUK Climbing.comが、リンク・サールの意味は「K 7 とK 6 を結ぶLinking Peak」と書いてあった。

コプルミュラーのリンク・サールは1969年にイタリア隊がナンマー谷からK 6 を狙う途次、西峰まで80 mに迫った。1975年の富山山雄会隊はチャラクサ側から南西稜を6900 mまで達した。2000年代を迎えてスティーヴ・ハウスやマルコ・プレゼリが挑みたと、2013年にカナダのラファエル・スロウインスキーとイアン・ウェルステッドが北西壁から初登頂、ピオレドールを受賞した。今井健司らのトリオは、これより早く6400 mまで迫ったものの、悪天候で敗退した。

一方、現在のリンク・サールでは、コンダス側からK 6 を目指した1964年のドイツ隊が、東壁に取り付けて6300 mまで達した。1979年の立正大学隊もほぼ同じルートで、東稜の6050 mで引き返した。2001年にはスティーヴ・スウェンソンらのアメリカ隊も同じルートを試みて6000 mに達した。その後、コンダス谷へは立ち入れなくなったので、この山へは西側のチャラクサ側からアクセスするしかなくなった。

ふたつのリンク・サールが混同されたのは、地形が複雑だったことと、標高が似ていたため、登山史家が机上で取り違えたためであろう。

チャラクサ側からリンク・サールを狙ったのは

2012年、イギリスのジョナサン(ジョン)・グリフィスである。ウィル・シムと2人でK 7 との間にある、雪崩に脅かされた狭い谷に入り込み、標高差800 mの北西壁に取り付いた。しかし、雪質の悪いアイスフルートに阻まれた。グリフィスは翌年、アンディ・ハウスマンと挑戦。BCから1800 mを登ってビバークしたが、前年と変わらない地点から敗退した。3度目の挑戦では、アメリカのケヴィン・マホニーと組んだ。今度はなんとか北西壁を登って支稜に抜け出したが、そこは登攀を続行することが不可能なほど悪い場所だった。

そして今年、グリフィスは再びハウスマンと組んで7月12日～17日、ようやく壁を登り西峰(6938 m)に立った。頂上まではさらに東へ約1 kmの稜線が続いていたが、グリフィスは前日停滞を余儀なくさせた発熱が再発し、南面へとエスケープした。

一方ナンマー谷では、かねてからこの山域に執念を燃やしてきたスティーヴ・スウェンソンらのアメリカ隊が活動した。スウェンソンは、本連載の2011年11月号で紹介した大ベテランである。

スコット・ベネット、グレアム・ジーマーマンと3人で8月8日～10日、順応をかねて未踏の岩峰チャンギ・タワー(約6500 m)に北稜から初登頂。K 6 中央峰南壁の中央ピラーを狙うが、スウェンソンはさすがに疲労が抜けず、攻撃は若い2人に任せることにした。ベネットとジーマーマンは、ルート下部が崩壊しそうなセラックに脅かされていたため中央峰を諦め、西峰南西稜に変更、8月18日～20日で第2登を果たした。



(写真説明)
リンク・サール北西壁、登攀ルート(左)と南面への下降路。奥に見える尖塔が主峰頂上。写真＝ジョナサン・グリフィス

「山の日」制定記念

—ふるさとの山に登ろう—

滋賀・三上山(みかみやま)432m

滋賀県野洲市三上にある山。標高は432mと高くはないが、ゆるやかな円錐形の稜線を持つ端正なその姿から近江富士と呼ばれている。平野部の残丘(浸食から取り残された丘陵)であるため存外よく目立ち、湖南地域のランドマーク的な山である。

登山道は、山麓の西側にある御神(みかみ)神社側からは表登山道と裏登山道の2ルート、東側に花緑公園登山道がある。いずれも登山口から山頂まで40分程度で登れる。

表登山道は、距離は短い急坂で岩場などもあり変化に富んでいる。岩場には鎖や手すりが整備されており小さな子どもでも安全に登ることができる。一方、裏登山道はゆるやかで歩きやすい。多くの人が使うのは、表登山道から登り、裏登山道側から降りるコースである。また、中腹には山を一周できる中段の道もあるが、一部にブッシュが生い茂っているところがある。

山頂手前の大きな岩場はテラス状となっており、恰好の休憩場所であり、眺望も効く。キラキラと輝く琵琶湖の向こうには比叡山や比良山系が見渡せるほか、天気の良い日には遠く生駒山まで望める。山頂にはしめ縄を張った大きな岩があり磐座である。その背後に御神神社の祠がある。三上山全体が御神神社のご神体



三上山

山となっていて、古くより地元の人々の信仰の対象となってきた。

毎年9月下旬から11月上旬まで、三上山の御神神社所有地が松茸山となるため、御神神社側の表・裏登山道の2ルートは登山だけでも初穂料が必要となるので気をつけてほしい。(花緑公園側登山道は通年無料で利用できる)

三上山をご神体とする御神神社は重文の楼門、拝殿、国宝の本殿などがある。また裏登山道入口には天保一揆の犠牲者を偲ぶ天保義民碑があり、山麓近辺には見るべきものも多い。さらに、三上山には、この山を七巻半した大ムカデを俵藤太が弓矢で退治したという伝説が残っており、ムカデ山という別名もあり地元の人に親しまれている。

行き方は、JR東海道線(琵琶湖線)野洲駅からバス6分御神神社前下車、登山口まで徒歩5分。

(滋賀県山岳連盟副会長 澤山 恵)



天保義民碑

「山の日」祝日化プレ・イベント

来年(2016年)から施行される8月11日の祝日「山の日」のプレ・イベントとして「『山の日』制定記念祭 in 大分・くじゅう」が8月11日に大分県九重町の長者原園地を中心に行われた。長者原地域は、阿蘇くじゅう国立公園に含まれ、標高約1,000mに位置し、牧ノ戸峠と並ぶくじゅう連山への主要な登山口である。会場周辺には阿蘇くじゅう国立公園の自然を展示し開設する「長者原ビジターセンター」やラムサール条約登録湿地である「タデ原湿原」がある。

記念式典に先立ち、地元の「坊がつる讃歌」歌碑建立実行委員会を中心となって長者原に建立した「坊がつる讃歌」の歌碑除幕式が行われた。除幕式には歌手の芹洋子さんも出席され、除幕式の後、「坊がつる讃歌」を参加者と一緒に歌われた。

記念式典には、全国「山の日」協議会の谷垣禎一会



「坊がつる讃歌」の歌碑建立



来賓挨拶の谷垣禎一会長

長、務台俊介事務局長、超党派「山の日」議員連盟の衛藤征士郎会長、広瀬勝貞・大分県知事、田中利明・大分県議会議長、坂本和昭・九重町々長、首藤勝次・竹田市々長らが臨席された。

オープニングアトラクションとして九重あばれ獅子 & 九重樽太鼓の皆さんによる勇壮な獅子舞が披露された。

式典は坂本町長が開会宣言をし、広瀬県知事が主催者側を代表して挨拶された。来賓挨拶としては谷垣会長、衛藤会長、田中議長から順次祝辞が述べられた。

次いで主催者側が応募した「山へのメッセージ」をミス日本みどりの女神・佐野加奈さんが読み上げた。

その後、芹洋子さんと地元コールやまなみ&飯田こども隊の皆様による記念合唱が行われ、会場は盛り上がった。

最後に九重町立飯田小学校と竹田市立都野小学校の児童4名が「おおいた『山の日』宣言」を読み上げた。

会場周辺には環境省、林野庁をはじめ地元の多くの団体が体験展示ブースを出展されて、参加者で賑わっていた。

—— おおいた「山の日」宣言 ——

私たちのふるさと大分には、身近にくじゅう連山などの豊かな山や森林があります。

山は、季節ごとに色や形を変えながら、美しい景色を見せてくれます。

春はミヤマキリシマ、夏は木の葉や草花、秋はもみじ、冬は雪など、四季によって様々な色どりを見ることが出来ます。

小さい頃から親しんでいる、ふるさとの雄大な山は、僕たちの誇りです。

山は、どんな時もそこから動かず、いつでも静かに僕たちを見守ってくれています。

山は、僕たちに安心感を与えてくれます。いろんなことがあっても、山をしばらくながめると、気持ちが落ち着きます。

山は、たくさんの恵みを私たちに与えてくれます。山は、空気をきれいにし、水をたくわえ、動物や植物の生きる場所を与えてくれます。

山は、木の実やきのこなどのいろんな食材、暮らしに欠かせない木材などを与えてくれます。

山は、私たちのくらしや安全を守り、心のうるおいや体のいやしを与えてくれます。

今の大人が子どもの頃は、今よりも、山でもっとよく遊び、山ももっと身近にくらしていたそうです。そして、山は昔の人がずっと大切に守り育て、子どもや孫に引き継いできたものだそうです。

私たちは、山のことをもっと学び、もっと身近に感じ、これまでと同じように大切に守っていかねばならないと思います。

僕たち、私たちは、これからも、山や森に親しみ、豊かな山の恵みに感謝し、くらしの中で山との関わりを深めていきます。

大分のかげがえのない山を守り育て、僕たち、私たちの次の世代に伝えていきます。

平成27年8月11日

「山の日」制定記念祭 in 大分・くじゅう

(記 尾形好雄)



高校生に呼びかける國松副会長

平成27年度全国高等学校総合体育大会登山大会が滋賀の山、高島トレイル・比良山系を会場に開催され、

8月11日に無事閉会式を迎えました。

8月11日は来年より施行される国民の祝日「山の日」であることから、閉会式終了後の諸連絡で日本山岳協会副会長・滋賀県山岳連盟顧問の國松嘉伸氏が「山の日」制定の意義を全国の高校生に訴えました。

会場には地元滋賀のイメージキャラクター「キャプフィー」と次年度開催地岡山県真庭市観光キャラクター「まにぞう」が登場。両キャラクターの間に「山の日」制定の横断幕が掲げられ、多くの高校生の注目を集めました。

(滋賀県山岳連盟副会長 澤山 恵)

福島県山岳連盟「山の日」をアピール



「山の日」のぼり

ネパール大地震救援募金を贈呈 ランタン村復興とロールワリンの小学校再建に

4月25日に発生したネパール大地震とその後の余震により、ネパール各地では甚大な被害に見舞われました。とくに英国人登山探検家のH. W. ティルマンにして「世界で最も美しい谷」と言わしめた、ランタン地域は村落全体が壊滅し、深刻な状況にあります。

また、多くの優秀なシェルパを輩出してきた、ロールワリン地域ではベディンとシミガオンの小学校が損壊し、再建しなければならない状況です。

日本の主要山岳6団体(日本山岳協会、日本勤労者山岳連盟、日本山岳会、日本山岳ガイド協会、日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト、日本ヒマラヤ協会)で立ち上げた「ネパール大地震救援募金委員会」では、協議した結果、7月までに集まった募金約1860万円(日山協分284万円)から第一次支援としてランタン村の復興に尽力されているNGO「ランタンプラン」(貞兼綾子代表)とロールワリンの学校建設費としてそれぞれ500万円ずつ贈呈しました。

この救援募金の第1次締め切りは10月末日です。ネパール各地には、まだまだ支援が必要です。どうか引きつづき救援募金へのご協力をお願いいたします。ネパールの復興状況については適宜報告いたします。



8月6日、「ランタンプラン」貞兼綾子代表へ贈呈



被災前の小学校

損壊したシミガオンの小学校



〈ネパール大地震救援募金振込先〉

- みずほ銀行 渋谷支店 普通口座3382501
口座名「公益社団法人日本山岳協会免税口」
- 郵便局の郵便振替払込用紙を使われる場合は、
口座記号番号：00110-5-546693、加入者名：公益社団法人日本山岳協会
(※通信欄に「ネパール大地震救援募金」とお書き下さい。住所、氏名、電話番号もご記入願います。)

- ①募金は1口2千円です。
- ②第1次募金期間：平成27年5月1日～10月31日

【連絡先】

公益社団法人 日本山岳協会
〒150-8050
東京都渋谷区神南1-1-1 岸記念体育館内
電話 03-3481-2396 FAX 03-3481-2395
E-mail : info@jma-sangaku.or.jp
H.P : http://www.jma-sangaku.or.jp

全国規模での高校山岳部の実態調査 (2)

——指導者と生徒へのアンケート結果から——

3. 生徒アンケートからニーズをさぐる

生徒は何を求めて高校山岳部へと足を踏み入れるのだろうか。生徒の中学校時代の部活動は、運動部への所属が593名(83%)、学芸部への所属113名(16%)、無所属25名(3%)であった。回答では、運動部へ所属していた者のうち39名(5%)が山岳部へ所属していた(内9名は中高一貫校と推測される)と回答している。中学校で山岳部の活動をしているところは少数であるため、稀有な例である。しかし、逆に言えば、中学での山岳部体験は高校でも引き継がれるということの証明でもある。大部分の生徒にとって、高校での山岳部活動は、新しいことへの挑戦でもある。

入部動機については、「山や自然が好き」「山や自然に興味があった」といった理由を答えている生徒が30%を超え、「楽しそうだから」「友人や先輩に誘われて」などを挙げている生徒もそれぞれ15%程度で、この4項目で概ね6割を占めている。高校のクラブ活動は青春時代の貴重な思い出づくりでもあり、そこに高校山岳部のもつ一つの側面もある。山や自然が好きであるという要素に加え、仲間との関わりや高校生活の充実をクラブ活動に求める高校生の姿が現れている。また、「先生の影響」、「親や兄・姉の影響」や「これまでの山登りの体験」といった回答を寄せている生徒も10%程度おり、周囲の環境や幼いころからの登山の経験も入部動機の要素としては一定の比率を占めている。「自分にもできそうだから」とか「新しいチャレンジとして」、「体力をつけたいから」などという回答も高校生らしい。

山行については、1ヶ月に1回から2回が平均的であり、年間で平均35.7日という結果が現れた。高校では2ヶ月に1回程度は定期テストがあり、その期間を



長野県中信高校新人大会(美ヶ原茶臼山)

含む2週間程度はクラブ活動の禁止または自粛が一般的である。そう考えるとほぼ1ヶ月に1回というのはかなりの頻度で入山していると言える。

ここ数年、都市部を中心に人工壁でのクライミングも普及し、2012年度からは高体連が主催する全国選抜クライミング選手権大会も開催されている。クライミングについては、取り組んでいる生徒の平均クライミング日数は1ヶ月に7.6日であった。しかし、今回回答した学校の中で、選抜クライミング大会へ参加している学校は少ない。都市部の高校を中心に、いわゆる登山は行わずクライミングのみの活動をしている学校も少なからずある。また、選抜大会に参加している生徒の中にはクライミングジムなどで活動をし、学校の山岳部の活動という範疇には収まらない生徒の多いことも現実である。山岳部の活動の一環としてクライミングは極めて有効な活動であるが、取り組みには、大きな差がある。クライミングの練習場所・クライミングジム等の施設環境に個人的な要素が加わり、取り組みには地域による差、個人による差が生じている。

生徒たちが山岳部に入部してよかったと感じていることの中では、「自然の素晴らしさに触れた」「楽しさがわかった」「達成感がある」などが3割を占め、「体力がついた」(21.8%)「共同生活を通して仲間との絆ができた」(20.6%)と合わせると7割を超える。その他には「精神面が鍛えられた」「生活力が身についた」「不便さの中で日常の素晴らしさを感じることができた」などという回答もそれぞれ5%程度ある。

山岳部の活動をしていく上で困っていることへの回答の筆頭は、「金銭面での負担が大きいこと」(24.2%)であった。親がかりの高校生たちが、道具を揃えるところ



長野県山岳総合センター高校登山研修会

ろから始まり、実際の山行での交通費や食費などかなり苦勞している様子が見られる。次いで「体力面や健康面での不安」(10.8%)「部員数が少ない」(10.1%)「勉強との両立が難しい」(10%)などが続く。まじめに部活動に取り組もうと考えている高校生の率直な悩みであろう。「女子部員が少ない」(5.1%)「風呂に入れない」(4.8%)「認知度が低い」(4.2%)といった回答も若者らしい。経済的な面の困難性は、指導者も口を揃えているところであり、高校生が山岳部活動を続けていくうえで、高いハードルとなっている。

入部する前と入った後のイメージのギャップとしては「競技があるとは知らなかった」という回答や「大会で覚えたりすることが多い」「天気図などの審査がある」などが35%を占め、高校総体を始めとする競技登山に対する違和感の大きさが浮き彫りになっている。さらに、活動については「思った以上にきつい」という回答も30%を超えている。もともと、登山は他人と競うものではないものであり、そのイメージを持って入部するというのは当たり前の姿だろう。だから、先の入部動機の中に大会や競技登山に言及したものはほとんどなく、それとは対極にある中学でのハードな運動部体験からの逃避的な部分や、家族との楽しい登山の思い出をきっかけとしたもの、友人との楽しい高校生活への期待などが挙がっているのである。それが、生徒の目には「大会への違和感」、「想像以上に厳しい世界」と映っている。しかし、だからと言って、彼らの殆どが登山を嫌いになっているわけではなく、むしろ登山を好きになっていることは注目に値する。彼らは、自分の描くクラブ活動とはイメージの異なる世界においても、ある意味競技は競技として割り切り、苦勞を共にし、共同生活をする中で、目的を見出しているのである。それは登山が本質的に持つ魅力のなせる業といえるのではないだろうか。どのような形にせよ、山の素晴らしさを知った生徒たちを将来の登山界へと繋ぐべく、大事にしていきたいものである。



大町高校夏山合宿(北ア烏帽子岳)

4. おわりに

将来の登山の目標について、ほとんどの生徒が山に関する目標を記述し、高校卒業後も自分なりの山を追求したいと考えていることがうかがわれる。

高校山岳部の活動期間は長い人生においては凝縮した短い期間である。しかも、その時期は極めて多感な時期であり、生涯の友との出会いもあれば、進路を決める大事な一段階でもある。その時期に山岳という素晴らしい世界に足を踏み込んだ生徒たちとともに夢を語ることは何と素敵なことだろう。少子化が進行し、学校統合やクラブ活動全体の見直しも行われている中で、10年ほど前に比べ、印象とはいえ、指導者が感じている山岳部回帰の流れを絶やさないためには、ある意味今が正念場かもしれない。

(全国高等学校体育連盟登山専門部 副部長 大西 浩)

**インカ・トレイル・トレッキングと
マチュピチュ、クスコ、ナスカの地上絵 12日間**

発着地 **東京** 旅行代金 **¥648,000~¥678,000**

出発日 **3/4(金)・3/18(金)・4/8(金)・4/27(水)・5/13(金)・6/3(金)**
*燃油サーチャージ(2015年7月20日現在:目安約21,000円)が別途必要です。

インカ・トレイルは入山許可取得が必要となりますので、
 早めのお申し込みをお願いしております。

旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員/ボンド保証会員

ALPINE TOUR SERVICE 株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海ビル4階 ☎03-3503-1911
 大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557
 e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

登山者の安心安全を守る!

画期的アイテム新登場 **ブザー付GPS搭載端末**
みんなの安心安全を守る
みまもり犬 まもる

位置が分かる

▶ 遭難や事故時に救難メール
 ▶ 家族にワンッシュ安否報告
 ▶ いつでもリアルタイム検索
 ▶ あとから足取り確認

株式会社ドンデ
 ☎03-6326-0407
 ✉support@donde.jp

詳しくはWEBで <http://mamoru.donde.jp/>

HELP!

平成26年度、日山協の競技会において行ったドーピング検査は4回。20検体を採取した。日本選手権が中止になったので予定より3検体少なかった。現在、協会主催の代表選手の選考を行う大会では必ず検査が行われている。もちろん陽性例は一度もない。また、現在1検体あたりの費用は尿で11万円、血液では16万円程かかり、検査員の謝金、旅費などを加えると、6月のリードジャパンカップ和歌山大会6検体(尿4、血液2)での経費は120万円程かかった。その9割は日本スポーツ振興センター(toto)からの補助金で賄われている。

検査を始めた当初、検査は協会所属の検査員(DCO)で行っており、自前のスタッフで検査を行う体制作りが急務であった。しかし、現在では協会とは直接関係のないJADA検査員により実施されるようになり。検査員は、原則として自らが関係するスポーツの検査を行えないことになっている。また、日本で行われる国際大会でも、検査の立案には国際競技連盟(IF)の意見が多く反映される。国内競技連盟(NF)が自国の選手に配慮することへの予防策である。検査員の質はとて高くなっている。

当初、国際スポーツクライミング連盟(IFSC)の規則の中に1位を検査対象にしろという条項があり、優勝者は必ず呼ばれていた。そうすると特定の選手に検査が集中することになり、弊害があった。また、スポーツクライミングでは、決勝進出者すべての選手の競技が終了しないと順位が決定せず、最初に競技終了した選手は指定した場所で待機してもらうなどの不便をお願いしていた。現在、いくつかの大会では決勝進出者に対して、準決勝の順位をもとに検査対象選手を決定。各々の競技終了時に通告して、拘束時間の短縮を行っている。必ずしも優勝者が検査されるわけで

はない。検査対象者の選出はほとんどの場合にランダムであり、近い将来、決勝進出者以外からの選出もありうる状況となっている。10位の選手でも国際大会で良い結果を残せる選手が存在するなど競技レベルの高い競技と評価されており、検査の対象枠はさらに広がると予想される。

検査に用いる尿は一定以上の比重(1.005以上)が必要とされている。数年前からとても正確な尿比重計が登場した。結果、競技終了後に大量に水分を摂取した選手から採取した尿が低比重(薄い状況)で追加検体ということが度々起こっている。その場合に、十分な比重に達するまでかなりの時間を要し、数回の採尿となることもあり、表彰式終了から数時間が経過しても検査が終わらない状況に追い込まれる。こうなると、検査の現場はとても重くなる。国際大会などの場合には、JADAから宿舎まで行けとの非情な指令が出る場合もあるという。選手にはとても大きな負担だ。

現在我が国は2020東京五輪に向けてあらゆる角度からスポーツの意義が問われている。ドーピング検査も「尿」から「血液」へ、「競技会検査」から「競技会外検査」へと移行し、スポーツクライミングもオリンピック種目に向けて、これまで以上に高いハードルを越えなければならない状況になってきた。

アンチ・ドーピングは選手に大きな負担を強いるシステムとなりがちである。また、その性質上、真実が表面に出てくるのが希な活動となっている。より多くの関係者に正しい知識を身につけていただき選手の支援をお願いしたい。今年度のブロック研修会からアンチ・ドーピング講習会を実施する予定である。より多くのスタッフの参加をお願いします。

(記 アンチ・ドーピング常任委員 中川 裕)

トピックス

2020年東京五輪追加種目

スポーツクライミングが最終選考へ

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会は、6月22日、開催都市が国際オリンピック委員会(IOC)に提案できる追加種目の1次選考結果を発表し、スポーツクライミングなど8つの

国際競技連盟(IF)が8月のヒアリングに進んだ。選ばれた追加種目候補は、スポーツクライミングのほか、野球・ソフトボール、ボウリング、空手道、スカッシュ、ローラースポーツ、サーフィン、武術。

2020年東京開催が決まった13年に東京での実施を争った7競技のうち、ウエイクボードが外れ、サーフィンとボウリングが加わった。種目追加検討会議では、事前に設定していた3原則(①若者へのアピール②日本での機運を高める③透明性と公平性)を大前提



虎ノ門ヒルズのヒアリングに臨んだ代表团

とし、I O Cが公表した35の評価項目を各団体ごとに審査し、応募のあった26団体から最終的に8団体を選定した。

その後、大会組織委員会は8月7日、8日の両日、最終選考に残った8つのI Fに対するヒアリングを都内の虎ノ門ヒルズで行った。

国際スポーツクライミング連盟(I F S C)からは、ヒアリングに先立ちMarco Maria Scolaris会長、Debra Gawrych事務局長、Jerome Meyerスポーツ・マネージャーが来日。それに日本から尾形好雄(日山協副会長)、小日向徹(アジア・スポーツクライミング連盟副会長)、選手代表として平山裕示、野口啓代の計7名が、I F S C代表团としてヒアリングに臨んだ。

初日(7日)のヒアリングではI F S Cは5番目に登場。緊張感の漂う会議室には、大会組織委員会の森喜朗会長や御手洗富士夫・経団連名誉会長、青木剛・J O C副会長ら種目追加検討会議のメンバーが臨席され、I F側からのプレゼンテーションは15分、その後30分の質疑応答の形で行われた。森会長からは競技の公平性。御手洗委員長からは競技人口や国内での普及度などの質問が寄せられた。

翌日(8日)のヒアリングは、室伏広治・J O C理事ら実務担当のメンバーにより、Q & Aだけで50分間行われた。質問の大半は競技施設の会場地や費用、競技種目、チケット販売による興行収益などに関するものであった。

大会組織委員会は今後、あらためて種目追加検討会議を開いて対象種目を選出。9月28日の理事会での承認を経て9月30日に正式にI O Cに提出する。選考に当たっては従来通りの3原則とI O Cから示された35項目を重視するとの事。

IFSC W-cup ボルダリングシリーズ終了記者会見

2015年のI F S CクライミングW-cupのボルダリングシリーズは、8月14日～15日にドイツ・ミュンヘンで行われた第5戦で全て終了した。女子年間ランキングで野口啓代選手が2連覇を果たし4回目(2009、10、14、15年)の年間チャンピオンに輝いた。また、野中生萌選手も3位に入り、国別ランキングで日本は2位に497ポイントもの差をつけて1位となった。

本協会では、これらのシリーズ報告記者会見を8月24日(月)に岸記念体育会館のスポーツマンクラブで行った。当日は、新聞、雑誌、テレビの報道各社のほかスポンサーのゴールドウイン、マムート・スポーツ・グループ・ジャパン、ゼロスタート、モンベルや電通、博報堂などの広告代理店など約20社が取材に訪れた。

選手は、野口、野中、藤井快の3選手が出席して2015年大会の報告と今後の抱負を語った。



野口啓代選手と野中生萌選手(左)

各大会の主な成績は以下の通り。

第1戦(カナダ・トロント大会、5/30-31)

女子2位野口、7位野中、男子4位藤井

第2戦(アメリカ・ヴェイル大会、6/5-6)

女子2位野口、4位野中、男子6位藤井、8位杉本 怜

第3戦(中国・重慶、6/20-21)

女子1位野口、2位野中、4位尾上彩、7位田嶋あいか、男子3位堀創

第4戦(中国・海陽、6/26-27)

女子2位野口、4位野中、8位小林由佳、男子6位中野稔、8位堀

第5戦(ドイツ・ミュンヘン、8/14-15)

女子4位野口、7位野中、男子8位杉本

平成27年度前期 海外登山奨励金 選考結果

(公社)日本山岳協会では、海外登山の振興と技術の普及、向上を目的として、海外登山奨励金制度を制定し、斬新、独創的で、多大な成果の期待できる登山計画に対し、奨励金を交付しています。

今期(平成27年9月～平成28年2月出発予定の隊)は4隊の応募があり、厳正な審査の結果、以下のように4隊共に奨励金を交付することを決定しました。

●「Giri Giri Boys Patagonia Expedition 2016」

(期 間) 2016年1月4日～2月28日

(隊 員) 横山勝丘、増本亮、長門敬明

(内 容) 南米パタゴニアのフィッツロイ山群縦走及びポローニ山群縦走と周囲の岩壁の新ルート登攀など

(交付額) 20万円

●「CHAMLANG JAPAN EXPEDITION 2015」

(期 間) 2015年9月25日～11月25日

(隊 員) 今井健司、武田真敏

(内 容) 順応も兼ねた西稜からのチャムラン主峰(7,319m)登頂と、その後の今井による未踏の北壁の単独登攀

(交付額) 20万円

●「Kangtega Expedition 2015」

(期 間) 2015年10月10日～11月18日

(隊 員) 鳴海玄希、馬目弘仁、青木達哉

(内 容) カンテガ主峰北壁を、未踏のヘッドウォールまでダイレクトに、アルパインスタイルで登る。

(交付額) 20万円



カンテガ北壁

●「フムラ・カルナリ川研究隊」

(期 間) 2015年12月15日～2016年1月15日

(隊 員) 宮城公博、他一名未定

(内 容) 西ネパールの、ヒマラヤを水源とするフムラ・カルナリ川の全長20kmに及ぶ記録未見のゴルジュ帯を沢登りで突破する。また支流の温泉の沢を遡行し、源流を踏査する。

(交付額) 10万円

パタゴニア隊、チャムラン隊、カンテガ隊は、目標の技術的困難度、未開性、登攀スタイル、隊員の過去の実績による現実性などを考えて、どれもそれぞれに評価できたため、同等の20万円の交付とした。フムラ・カルナリ川隊は、ヒマラヤの険谷に日本固有の沢登りというスタイルで挑むユニークさや、対象の未開性は大いに評価したい。しかしメンバーが決まっていないことなど実現可能性に疑問も残ったため、他より少ない10万円の交付とした。



平成27年度8月(27年8月)
常務理事会議報告

日 時 平成27年8月30日(日)
11時45分～14時20分

場 所 東京海員会館会議室

出席者 八木原会長、尾形・國松・高橋・
亀山各副会長、小野寺、西内、仙石、
森下、京才、水島、瀧本、中瀬各常務
理事、中島監事

委 任 なし

常務理事(常務理事13名中13名出席)

1. 議 事

(1)平成27年度7月常務理事会議事録
の承認について(事前送付済)

(異議なく承認された)

(2)平成27年度「少年少女登山教室」交

付申請の承認について

(7月以降申請のあった6件の交付が
承認された)

(3)平成27年度「山の日」祝日化制定記
念事業交付申請の承認について

(8月までに申請のあった8プロ
ックへの交付が承認された)

(4)海外登山奨励金交付申請の承認につ
いて

(選考委員会から答申された4隊への
交付が承認された)

(5)平成27年度専門委員会常任委員候
補者の承認について

(7月常務理事会でペンディングと
なった一部専門委員会の常任委員候
補者の修正が報告され、承認された)

(6)山岳スキーとアイスクライミングの
事業見直しについて

(双方とも事業取り止めの方向で承
認され、山岳スキーについては八木
原会長、尾形副会長が近々当事者と

協議する)

(7)報告事項

ア 会計月次報告

(小野寺事務局長より7月31日までの
会計報告が行われた)

イ 和歌山国体の準備について

(京才常務理事より資格審査などの
進捗状況が報告された)

ウ 東京五輪2020年追加競技種目ヒ
アリングについて

(尾形副会長より役員研修会で説明
した通りなので、常務理事会では割
愛させて頂くと報告)

エ 平成27年度中高年安全登山指導者
講習会(東部・西部地区)について

(仙石・瀧本常務理事から東部地区
の参加状況の報告があった)

オ 第54回全日本登山体育大会につ
いて

(仙石常務理事から参加状況の報告
があった)

カ ネパール大地震救援募金について
(小野寺事務局長より7月までに集まった募金から第1次支援としてNGOランタンプランとロールワリンの学校建設に500万円ずつ贈呈したことが報告された)

キ 日中韓3国合同技術研修会の中止について
(西内常務理事から9月に予定されていた研修会が中止になったいきさつが報告された)

ク 「みんな集まれ!ジュニア登山教室 in 立山」の報告
(中瀬常務理事から今夏事業の報告があった)

2. 後援、協賛等の依頼について

- (1)植村直己顕彰事業「2015日本冒険フォーラム」後援名義使用の承認(事後承認の報告)
- (2)第2回日本学生SC対校選手権大会「後援名義使用の承認(事後承認の報告)」
- (3)大阪府岳連「第9回生駒山チャレンジ登山大会」後援名義使用の承認(事後承認の報告)
- (4)茨城県岳連「創立60周年記念事業」

後援名義使用の承認(事後承認の報告)

3. 報告

- (1)参与退任: 大山弘毅(神奈川)、清野誠一(宮城)
- (2)AC指導員の認定承認
 - ・鳥取: 時本景亮、奥平公衛、以上2名
 - ・長野: 岩井美香、田中秀和、及川真弓、中嶋純子、落合理恵、小野文孝、以上6名(以上、8名が承認された)
- (4)AC上級指導員の認定承認
 - ・鳥取: 小坂秀巳、以上1名(以上、1名が承認された)

4. 日誌(7月10日~8月28日)

- (1)内閣府・気象庁「噴火速報」に関する意見交換 7月17日(金) 於: 中央合同庁舎8号館 尾形副会長
- (2)日本スポーツ振興センター toto 助成金交付式 7月13日(月) 於: 東京プリンスホテル 小野寺常務理事
- (3)山岳4団体役員懇談会 7月23日(木) 於: 飯田橋・Circo 八木原会長、尾形・亀山副会長、小野寺常務理事
- (4)御嶽山噴火災害を踏まえた救助技術高度化等検討会 7月28日(火) 於: 中央合同庁舎4号館 中瀬常任委員

- (5)IFSCマルコ会長との協議 8月5日(火) 於: 浜松町 神崎顧問、八木原会長、尾形副会長、森下常務理事、小日向委員長、安井委員
- (6)2020東京五輪組織委員会ヒアリング 8月7日(金)~8日(土) 於: 虎の門ヒルズ 尾形副会長、小日向委員長、平山裕示委員
- (7)第59回全国高等学校登山大会 8月7日(金)~11日(火) 於: 高島市民会館、高島トレイル、比良山系 八木原会長、國松副会長、小野寺常務理事
- (8)「山の日」制定記念祭 in 大分・くじゅう 8月11日(火) 於: 大分県九重町・長者原園地内 尾形副会長
- (9)第18回JOCジュニアオリンピックカップ大会 8月14日(金)~16日(日) 於: 南砺市・桜ヶ池CC 八木原会長、西原・山本委員長
- (10)みんな集まれ!ジュニア登山教室 in 立山 8月16日(日)~19日(水) 於: 国立立山青少年自然の家、弥陀ヶ原、雄山周辺 本木顧問、西内・仙石・中瀬常務理事
- (11)全国ルートセッター研修会 8月17日(月)~19日(水) 於: 南砺市・桜ヶ池CC 山本委員長
- (12)指導常任委員研修会 8月22日(日)~23日(月) 於: 神奈川山岳スポーツセンター 瀧本常務理事
- (13)IFSCワールドカップボルダリングシリーズ終了記者会見 8月24日(月) 於: 岸記念体育会館 八木原会長、尾形副会長、小野寺・森下常務理事、小日向委員長
- (14)JOC-NF強化関係連携連絡会議 8月26日(水) 於: 岸記念体育会館 小野寺常務理事、中川事務局長
- (15)世界ユース選手権 8月26日(水)~9月7日(月) 於: イタリア・アルコ 小日向団長他選手29名
- (16)役員研修会 8月29日(木)~30日(金) 於: 東京海員会館 八木原会長他

寄贈図書

寄贈本	文芸社	「もりのおくりもの」かんべひろみ・ふじいあきえ作
雑誌	山と溪谷社	「山と溪谷」No.965
	(株)ネイチュアエンタープライズ	「岳人」No.819
	ジャパン・スカイランニング・アソシエーション	「スカイランニングマガジン2015」創刊号
	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第578号
	横浜山岳会	「月刊山」998号
	(公財)健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No.448
	FEDME FEDERACION ESPANOLA	「ANUARIO 2014」
	(公財)日本ボウリング協会	「JBC ニュース」第525号
	La rivista Club alpino italiano	「Montagne360」agosto 2015
	(公社)日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」2015.8.10 No.310
	常北山水会山岳部 助川 勉	「山水」第41号
	和歌山県山岳連盟	「和岳連」第41号
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」No.487
	FEEC	「VERTEX」No.261
	愛知県山岳連盟	「愛知岳連ニュース」第414号
	やまびこ山想会	「やまびこ」第160号
会報	(公社)日本山岳会	「山」No.843
	Korean Alpine Federation	「大山聯」Vol.200
	(公社)日本山岳会	「山岳」2015年 vol.110
	東京野歩路会	「山嶺」vol.92 No.1026
	三峰山岳会	「岩つばめ」No.348
	日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」第425号
	おいらく山岳会	「山行手帖」No.669
	モンベル	「OUTWARD」No.68
	スポーツこころのプロジェクト	「スポーツこころのプロジェクト新聞(スポここ)」第10号
	(公財)東京都スポーツ文化事業団	「スマイルスポーツ」vol.63
	(公財)京都府体育協会	「京都府体協時報」No.119
	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第579号
	福岡山の会	「せふり」No.370
	(公社)日本山岳会 自然保護委員会	「木の目 草の芽」第117号
	(一財)日本防火・防災協会	「地域防災」No.3
	田尻 廣明	「クライミングクラブ鹿兒島黒後会 創立40周年記念誌」
	日本オリンピック・アカデミー	「JOA Times」2015 第38号

編集後記

8月最後の土日宿泊で役員研修会が実施され日山協の現状と課題について真剣に討議された。広報はHPの運用と組織内LANの構築が喫緊の課題ではと思う。日山協HPに関する建設的な意見があれば委員会への提言を宜しくお願いします。

(広報担当 水島彰治)

登山月報 第558号

定価 110円(送料別)
 予約年間 1,300円(送料共)
 昭和45年12月12日
 第三種郵便物認可
 (毎月1回15日発行)
 発行日 平成27年9月15日
 発行者 東京都渋谷区神南1-1-1
 岸記念体育会館内
 公益社団法人日本山岳協会
 電話 03-3481-2396
 FAX 03-3481-2395

NPO法人 **北丹沢山岳センター**
 事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
 TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980
 E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp
 蛭ヶ岳山荘 TEL:090-2252-3203(衛星電話)
 神の川ヒュッテ TEL:042-787-2276
 和田峠「峠の茶屋」TEL:042-687-2882
 ユーシロツツ安全管理 TEL:042-687-4011
 理事長・代表 杉本憲昭

NPO法人 **北丹沢山岳センター**
 神奈川県・山梨県東部トレイルラン連絡協議会
 事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
 TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980
 E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp
 ・北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
 ・陣馬山トレイルレース実行委員会
 ・八重山トレイルレース実行委員会
 ・東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会
 ・上野原秋山トレイルレース実行委員会
 ・陣馬高尾ムーンナイトトレイルレース実行委員会
 ・峰山トレイルレース実行委員会
 大会々長 杉本憲昭

山岳
雑誌

岳人

山と人、
時代をつなぐ
「がくじん岳人」。

ひとたびページをめくると、先鋭的な現役クライマーから、散策を楽しむ登山愛好者、一線を退いた往年の登山家まで、「岳」を愛するすべての人々の想像力と冒険心をかきたてる、そんな存在でありたい。山の魅力や楽しさ、そこで生まれた文化を伝え、山と人との関係をより良いものにしたい、そんな思いを込め「岳人」をお届けします。

年間購読がおすすりめです。

購読割引 **送料無料** **限定品プレゼント**

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常本体価格12冊 年間購読12冊
8,160円 (+税) → **7,480円** (+税)
(税込8,812円) (税込8,078円)

1年間で680円
1冊分無料

NEW 年間購読特典

年間購読をお申し込みのみなさまにプレゼント!



岳人オリジナル
手ぬぐい & ペーパーナイフ



10月号
9/15発売

「岳人」10月号

【特集】穂高岳

【好評連載】夢枕 獺「神々の山嶺」創作ノート
／フリチョフ・ナンセン「グリーンランド初横断」
／石川直樹「まれびと」／秘境探訪 ほか

本体価格 680円
★モンベルのウェブサイト、全国のモンベルストアや書店にて発売中!

年間購読
お申し込み方法

◎ウェブサイトで
<http://www.gakujin.jp>

◎お電話で(受付後に振込用紙をお送りします)
0120-982-682 / TEL 06-6538-5797
※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

◎全国のモンベルストアで
<http://store.montbell.jp>

立ちどまらない保険。

MS&AD

三井住友海上



三井住友海上の安心

GK

www.ms-ins.com

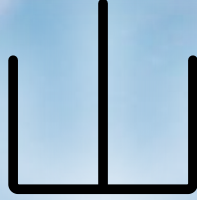
JMA

守ります。美しい日本の山。

祝

8
月
11
日

(2016年より)



国民の祝日

山岳保険は

日本山岳協会 山岳共済会

<http://sangakukyousai.com>

〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-7-11-707

TEL:03-5958-3396 FAX:03-5958-3397

E-mail:sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月～金 10:00～17:00(祝日除く)

Webからも申込みます